

可哀想な南モンゴルの少女

2014年5月5日

南モンゴルの冤罪被害者バトザンガーについて耳にしたことのある人は多いであろう。南モンゴル人を擁護する発言を繰り返したために中国当局に目を付けられることになったこの男性は現在、中国の刑務所で服役している。彼は真実を求めて闘ったが、力及ばず方策尽きて、血肉を分けた北のモンゴル人に助けを求めようと決め、何とかモンゴル国にたどり着いた。それまでの5～6年間、バトザンガーは苦悩の連続だったと言ってもよい。

バトザンガーの苦しい生活をいっしょに担ってきた14歳の娘さんについて語る人は誰もいない。この歳ではあり得ない苦しみを味わった南モンゴルの少女に私はどうしても同情してしまう。

冤罪被害者である父親が、漢人によって悪党呼ばわりされ続けていたことが少女にとってどんなにつらいことだったか。規律の厳しい中国の刑務所に収監されている父親を心配する母、そして「お父さんはどこなの？」といつも聞く4歳の弟、体調が悪くても「息子に会いたい」と高慢な漢人看守らの機嫌をとらなければならない祖母らの様子を見るにつけても、少女は一つのことを思い、注意深く暮らしてきたことだろう。数年前まだ8歳だった娘さんは、中国警察に執拗に追われていた父親によって母といっしょにこっそりとモンゴルに連れて来られた。到着するとすぐモンゴルの国連難民事務所に行って政治亡命の手続きをした。父親が必死で目指した「平穏な天国」が中国より恐ろしい所だということを、少女がどうして想像し得ようか。借りていたアパートのドアをモンゴルの警官がノックする度に少女が怖がったのは当然である。国連職員が父親を中国の警察に引き渡し、母と娘も父親といっしょに勾留して、その宿舎を警官が二重に見張っているのを見た少女の心の内がどんなであったのかは想像に難くない。

同じ歳の子供が両親といっしょに楽しく遊んでいる時、この少女は「お父さんはどうなってしまうのだろうか」と恐怖に怯え、両親の様子を見ては、その目に悲しみがこみ上げてきたのは言うまでもない。

4年前バトザンガーと電話で話した時、娘さんについて「娘は学校で勉強しています。南モンゴルと中国のメディアでは、私をいつも攻撃して様々に中傷し



ています。娘がこれを見聞きして心中どれほど苦しんでいるか、私には想像できません。『大丈夫?』と尋ねることもできません。9歳の娘と私たちのパスポートは全て没収されてしまいました。私に容疑をかけてパスポートを没収するのは仕方ないとして、妻と娘のそれを没収するいかなる法的根拠もありません」と言っただけ息をついていたものだ。

何ら落ち度がないにもかかわらず、様々な恐怖や苦悩に毎日遭遇しているこの南モンゴルの少女の可哀想な運命を思って心が痛む。その苦悩に誰も気が付かないのである。

お嬢ちゃん、すぐに、きっとすぐに時が来て、お父さん、お母さん、弟、みんな元気で、心配も怖いこともない、笑いの絶えない楽しい暮らしができるようになりますよ！

(ナランツォクト・ダムディンスレン記者)

(原文) <http://narantsogt.blogspot.jp/2014/05/blog-post.html>